

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

○この数十年、日本の教育政策はへどのような教育をつくっていいか、失い右往左往してきた感がある。社会が期待するほど教

育は万能でないのに、日本は社会的な問題をしばしば教育のせいにする風潮がある。人間は意図的な「教育」で何とでも育てられるほど単純な生き物ではない。さらに、善意や熱意から教育を論じてもある種独りよがりな思い入れや思い込みが先走るものだ。絶対正しいという答えがないのに、ゆとり教育は是非か、いじめに対する厳罰主義は是非か等を二つに一つと論ずる。今は教育を建設的・多角的に論じ合い、構想し、実践を



豊かに心を繋ぐ支部総会
一人の世の不思議の出会い
東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

○今、支部総会に向けて走っている。最寄りの駅に着くと歴史や地域の匂いや香りを感じ取る。ある席で90歳を超えた会員のお言葉を皆で聞き入る。その振る舞いが凛とし、そして所作も美しい。戦時中、大連で家族と離散し、九死に一生を経て日本に戻った。「しわくちゃな教員免許証を腹巻に隠してくれていた母でした。」と眼差しを遠く大地に向けた。なんとも深い家族愛と重い自分史を昨日のここのように話す。波乱万丈な女教師人生なの

していく時ではないのか。そして、多様な子供達の優秀性の開発と人間性の陶冶に向けて、我々は責任をもって「良い教育とは」を明らかにしていく必要を感じる。その意味からも東京都の「採用前実践的指導力養成講座」は、教育を構想していく試金石であり、時期を得た教育政策の一つだと思ふ。去る、5月17日に開催した「教育フォーラム東京・二〇一六」の最後に結んだ。
○社会のどの組織も人手不足が深刻化している。我々の組織も例

外ではない。特に、本会の会員増強について「歩く前に考えよ」と叱咤激励されるが妙案はない。将来に向けて、本部と支部が心一つにして豊かな組織を創造し、「歩きながら考える」しかない。さて、老いて一生懸命になり、より謙虚になり、よく見えてくるものもある。この混迷する社会に対して、時には「異議あり」と果敢に声を出すことも大切だ。とこの頃、強く思うのだが…。会員の皆様のご健勝を祈りつつ。筆をおく。

主な記事

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| P1 巻頭言 会長挨拶 | P10 第1回会員研修会 |
| P2 第63回総会報告 | P12 本会主催の「教育フォーラム東京・2016」 |
| P4 叙勲・功労・長寿会員一覧 | P13 支部だより |
| P6 平成27年度決算書 | P14 平成28年春の叙勲・高齢者叙勲受章会員湯島の動静 |
| P7 平成28年度事業計画 | P15 「ねむの木の庭」探訪 |
| P8 平成28年度予算書 | P16 物故者、応募コーナー編集後記 |
| P9 平成28年度本部役員他 | |

第六十三回総会報告

期日 平成28年5月13日
会場 スクワール麹町

第六十三回定期総会が快晴に恵まれた五月十三日（金）の十二時三十分から開催されました。

一 開会のことば
司会 宇津木順一副会長
中岡啓子副会長

二 国歌斉唱
指揮 宮下 洋氏

三 綱領唱和 黒田貞夫副会長
四 物故会員に黙祷
27年度物故会員 一六一名

五 多田丈夫会長挨拶・要旨

東京都教育庁教育監伊東哲様はじめ多数の御来賓の皆様がお見えいただき誠にありがとうございます。また、本日は会員で御長寿を迎えられた先生方、叙勲の榮譽に輝かれた先生方を多



数お招きしました。先生方、誠におめでとうございます。さて、東日本大震災から五年が過ぎました。

『自然の猛威の前には人間の力はいくらにも無力でわたくしたちから大切なものを容赦なく奪っていききました。……命の重さを知るにはあまりにも大きな代償でした。しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく事がこれからのわたくしたちの使命です。』と語った気仙沼市階上中学校三年生梶原祐太君の卒業式答辞を思い起こします。去る四月十四日に起こった熊本地震の被災者の皆様や子供達も同じ気持ちでしょう。我々もいろいろな形でこれら被災者の方々に応援のため、未来に生きる若者達の教育のため、大人として寄り添って行きたいと思えます。

本会がこれまで続けて来た東京都の委託事業の『人材バンク事業』と『採用前実践的指導力

養成講座』も順調です。本会は今後とも全都の公立学校のために、将来を嘱望されている若い教師のためにこれまで以上にこれら事業を会員の皆様とともに全力で推進して参ります。

昨年の11月に策定された東京都の教育行政の根本方針である「教育施策大綱」の新しい動きにも注目しながら質の高い教育の創造という大きな課題に組織をあげて連携協力して参りたいと思えます。

六 来賓祝辞
東京都教育庁
教育監 伊東 哲 様

東京都教育委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日お集まりの皆様には、園長または校長として、これまで東京都の教育の充実、発展のため、ひとかたならぬ御尽力をい



たできましたことに厚く御礼申し上げます。

また、退職後におきましても子供たちの健やかな成長を願い、様々な教育支援活動を長きにわたり展開されるとともに、日頃より東京都教育委員会の施策に御理解と御協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

第三次東京都教育ビジョンの主要施策の一つに地域等の外部人材を活用した教育の推進があります。退職校長会の先生方に平成二十三年度からアドバイザーとして御就任いただいている『人材バンク事業』はまさにこの施策の趣旨に沿って行っているものです。二十七年度は延べ三七〇〇人の紹介がありました。

また、『採用前実践的指導力養成講座』でも全面的な御協力をいただいております。延べ千名近い方にお力添えをいただき、きめ細かい御指導を行っていただいたことにより受講生は自信をもって教員生活をスタートさせることができている。

こうした東京の教育を担う若

い人材の育成には今後とも退職校長としての豊かな経験と知識を基に、教育に対する熱い思いをもつ皆様方のお力添えいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

・全国連合退職校長会

会長 戸張 敦雄 様

総会が多田丈夫会長の優れたリーダーシップと会歌にうたわれている和の心を強め絆を深めながら力強く開会されましたことに祝意と敬意を表明いたします。

貴会は本年度も東京都教育委員会の委託事業を引き受け、これからの教員の指導力の向上や児童生徒の学力の伸長に尊い力を発揮されると伺っております。やがてそのエビデンスが明らかになることを期待いたしております。

人生一〇〇年といわれる時代です。いつまでも生き生きと人との交わりを保ち生きていくために東京都退職校長会の組織を上手に活用して欲しいと思います。

・東京都中学校長会

会長 常盤 隆 様

本日は定期総会、誠にありがとうございます。

また日頃から皆様には私共の学校教育、学校経営に御支援御協力をいただき誠にありがとうございます。

平成二十八年度も一カ月が経過し、学校では現在運動会や体育祭と、学校全体で動く気運が高まっています。

国では次期学習指導要領の改定が進み、小学校は平成三十二年、中学校では平成三十三年に全面实施が予定されています。こうした動きの中で各種の校長会等ではその実現に向けて環境整備を進めているところです。

◎来賓紹介（前記三名以外）

・東京都教育庁人事企画担当

部長 鈴木 正一 様

・同 指導部義務教育指導課

課長 大和 義行 様

・同 指導部企画推進担当

課長 榎並 隆博 様

・東京都教職員研修センター

授業力向上課

課長 堀田 直樹 様

・東京都教職員互助会

理事長 中村 長年 様

・同 経営企画部

部長 山田 利朗 様

・同 経営企画部互助事業課

課長 檜山 正 様

・東京都退職公務員連盟

会長 渋谷 安 様

・東京都国公立幼稚園こども園

長会副会長 桶田ゆかり 様

・東京都公立小学校長会

副会長 後藤 良秀 様

・東京都公立高等学校校長協会

事務局長 澤海 富保 様

・都民互助会代表取締役

社長 長末 眞次 様

・日本教育公務員弘済会

東京支部

常任幹事 清水頭賢二 様

・株式会社東京文久堂

馬場 康輔 様

・日本教育新聞社

高橋 巨樹 様

・同

森川 光樹 様

七 新会員紹介 42名の入会者

八 長寿会員に祝辞・祝品

本日の出席者紹介

喜寿代表挨拶 佐々木曉雄様

九 退任役員に感謝状等贈呈

本日の出席者紹介

代表挨拶 片岡 敦子 様

十 荣誉会員に祝辞

本日の出席者紹介



十一 議長選出

・世田谷支部長 小林 由衛氏

・八王子支部長 渡辺 和則氏

十二 議事

1 平成27年度 会務報告

2 平成27年度 決算報告

3 平成28年度 事業計画案

4 平成28年度 予算案

※全ての議案は承認

十三 議長解任

十四 報告事項

十五 会歌斉唱

十六 閉会のことば

指揮 宮下 洋氏

苗村崇倫副会長

◎総会終了後 会員研修会

◎その後会場を移しての懇親会

には来賓・会員約一五〇名が参加した。

平成27年度 春の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計19名（敬称略）

瑞宝小綬章 2名	涌井 澄夫（足立）	内田 修（北多摩中）
角田 元良（葛飾）	伊佐 隆一（葛飾）	菊地 明（北多摩西）
小野 具彦（西多摩）	小村 嘉造（八王子）	小松 明（千葉中）
瑞宝双光章 17名	秀島 照次（八王子）	矢部 栄五郎（埼玉）
小林 照夫（中野）	相良 玉城（町田）	赤木 正民（神奈川）
古橋 宏（中野）	八巻 知雄（北多摩北）	奥村 敏雄（神奈川）
加藤 れい（杉並）	宇井 治郎（北多摩中）	清水 良雄（神奈川）

平成27年度 秋の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計12名（敬称略）

瑞宝小綬章 1名	瑞秀 政裕（大田）	石井 辰彦（江戸川）
今成 昭（江東）	高橋 弘文（世田谷）	源原 重行（八王子）
瑞宝双光章 11名	宮川 英子（世田谷）	志村 秀男（西多摩）
根岸 敏夫（文京）	川上 喜一（板橋）	緑川喜千郎（千葉西）
松野 武男（墨田）	近藤 寛司（葛飾）	

平成27年度 高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計22名（敬称略）

瑞宝双光章 22名	吉岡 晴子（町田）	根本 和子（埼玉）
小川 啓（新宿）	宇根 忠廣（武蔵野・三鷹）	岩田忠次郎（埼玉）
鈴木 利光（墨田）	杉本忠太郎（北多摩中）	梅沢 公夫（埼玉）
新倉 繁夫（目黒）	小澤 昭夫（調布）	濱島 和夫（埼玉）
徳武 清助（世田谷）	新倉 剛（調布）	藤島 正美（埼玉）
新井 久（中野）	太田 昭吉（狛江）	村上 稔（埼玉）
石川二三子（豊島）	小安 昭子（北多摩西）	内野 和夫（茨城）
増澤喜美夫（練馬）	田野倉靖郎（西多摩）	

本会へのご功績を讃え感謝状を贈ります

功労会員（平成27年度総会以降の退任役員等）20名（敬称略）

会長	片岡 敦子（北多摩北）	支部長	齋藤 盛（千代田・中央）	浅沼 和男（三宅島）
副会長	田野倉訓郎（西多摩）	鈴木 一正（文京）	小池角次郎（神奈川）	
評議員	榎本 真幸（町田）	山口 敏子（北）		
	松下 善一（北多摩西）	赤津 肇一（板橋）	理事	
	大石 良樹（神奈川）	中村 澄雄（練馬）	総務部	矢野 桂治（世田谷）
	浦上 景一（葛飾）	相澤喜久雄（町田）	会報部	片野 作二（調布）
		増田 和彦（北多摩北）	福利厚生部	藤田 誠二（埼玉）
		茂手木 清（八丈島）	福利厚生部	金子 公子（神奈川）

祝 ご長寿

(敬称略)

- 百六歳 1名 郷司 賢吾 (世田谷)
- 百五歳 1名 岸田 勝則 (大田)
- 百四歳 1名 小川 忠良 (杉並)
- 百一歳 8名 三浦 照枝 (大田) 河野 茂夫 (世田谷) 朝倉 徹 (杉並) 守屋 章雄 (町田)
- 岡部邦三郎 (府中) 武内 進 (北・西) 渡辺弘一郎 (埼玉) 伊藤 芳郎 (神奈川)
- 百歳 6名 市来 康代 (目黒) 武田 キミ (大田) 相馬 孝之 (練馬) 瀬間 一成 (神奈川)
- 望月 英子 (神奈川) 福島 唯義 (神奈川)
- 白寿 6名 大正6年4月2日～大正7年4月1日生
- 近藤 安子 (台東) 保坂徳太郎 (杉並) 佐田 彊 (杉並) 木島 秀子 (武蔵・三鷹)
- 福田 三郎 (埼玉) 須山 道德 (神奈川)

米寿 145名 昭和3年4月2日～昭和4年4月1日生

- | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|---------------|-------------|
| 星川 光男 (新宿) | 前田美智子 (新宿) | 渡邊 令子 (文京) | 國元 泰治 (品川) | 佐久間 清 (品川) |
| 角谷 昭典 (品川) | 田口 源豊 (目黒) | 古川 純市 (目黒) | 大野 静夫 (大田) | 木部 廣雄 (大田) |
| 若菜 康三 (大田) | 林 重雄 (世田谷) | 小泉 高義 (世田谷) | 鬼塚満壽彦 (世田谷) | 村澤 裕重 (世田谷) |
| 山本 等晨 (渋谷) | 城崎 勇 (中野) | 坪川 正次 (中野) | 萩野 正夫 (杉並) | 加藤 彌 (杉並) |
| 岸野 一雄 (杉並) | 久保田恵政 (杉並) | 西 君子 (杉並) | 長谷川平四郎 (杉並) | 平野 庄一 (杉並) |
| 山中 優 (杉並) | 西河 良則 (豊島) | 柴崎 康信 (北) | 徳江 和雄 (北) | 後藤 榮 (荒川) |
| 五十嵐典子 (板橋) | 奥田 實 (板橋) | 川上 喜一 (板橋) | 栗嶋 實 (板橋) | 嶋根 欣一 (板橋) |
| 武田 範子 (板橋) | 相田新太郎 (練馬) | 浦辺 満明 (練馬) | 岡澤 禮子 (練馬) | 高崎平五郎 (練馬) |
| 西澤恵美子 (練馬) | 野木 惣市 (練馬) | 宮下 澄夫 (練馬) | 茂木 辰雄 (練馬) | 森本喜代治 (練馬) |
| 大本 邦嘉 (足立) | 大塚 久幸 (足立) | 小林 雍雄 (足立) | 小室 詢 (足立) | 豊島 武夫 (足立) |
| 石川 朋郎 (葛飾) | 大都 操 (葛飾) | 久保 勝平 (葛飾) | 近藤 睿 (葛飾) | 高橋 康平 (葛飾) |
| 西村 清 (葛飾) | 前沢 正己 (葛飾) | 石井 辰彦 (江戸川) | 大久保謙二 (江戸川) | 檜森 宏 (江戸川) |
| 岩井 貞雄 (八王子) | 岡本 昭二 (八王子) | 楠田 道子 (八王子) | 高水 典夫 (八王子) | 石井 通伝 (町田) |
| 大西 昭 (町田) | 北村 孝夫 (日南) | 杉林 正一 (日南) | 武田 恵子 (日南) | 中野目直明 (日南) |
| 中溝 篤子 (日南) | 花牟禮 哲 (日南) | 渡辺 淑夫 (日南) | 和田 民雄 (武蔵・三鷹) | 内野 仁之 (北・北) |
| 加藤 俊次 (北・北) | 小口 正営 (北・北) | 佐藤 榮春 (北・北) | 鍋田見四二 (北・北) | 廣岡 六衛 (北・北) |
| 松村 義朗 (北・北) | 余公 主子 (北・北) | 渡邊 雄幸 (北・北) | 秋野 敬一 (北・中) | 井口 典子 (北・中) |
| 金川 武光 (北・中) | 加藤 寛二 (北・中) | 金子 品福 (北・中) | 戸張 敦雄 (北・中) | 成田 一成 (北・中) |
| 原口 盛次 (北・中) | 古屋 登吾 (北・中) | 佐藤 次郎 (府中) | 長谷川 清 (府中) | 井上 松吉 (調布) |
| 佐久間清典 (調布) | 佐野 志郎 (調布) | 大柴 昭三 (狛江) | 古川 新 (狛江) | 木嶋 進 (北・西) |
| 坂本 保 (北・西) | 成迫 政則 (北・西) | 高山 初介 (西多摩) | 萩原 和夫 (西多摩) | 穂積 昭三 (西多摩) |
| 窪寺 昇 (三宅島) | 船越 コト (千葉南) | 小松 明 (千葉中) | 佐藤 晴也 (千葉西) | 島貫 榮一 (千葉西) |
| 新澤 勝治 (千葉西) | 正木 芳保 (千葉西) | 緑川喜千郎 (千葉西) | 山本 清治 (千葉西) | 山本武太郎 (千葉西) |
| 井出 正仁 (千葉北) | 漆原喜一郎 (千葉北) | 塩野 辰二 (千葉北) | 中村 道正 (千葉北) | 三谷 和夫 (千葉北) |
| 宇都野 徹 (埼玉) | 大野 勝弘 (埼玉) | 河原 俊夫 (埼玉) | 鈴木 博 (埼玉) | 中村 久雄 (埼玉) |
| 根本 勇 (埼玉) | 町田多万夫 (埼玉) | 森田 勉 (埼玉) | 吉田 浩治 (埼玉) | 井上 典民 (神奈川) |
| 岩崎 達郎 (神奈川) | 奥村 敏雄 (神奈川) | 久米 準 (神奈川) | 小林 義彦 (神奈川) | 島田 泰介 (神奈川) |
| 下河原五郎 (神奈川) | 田口 順次 (神奈川) | 寺橋 正光 (神奈川) | 藤井八恵子 (神奈川) | 美坂 修典 (神奈川) |
| 山田 三郎 (神奈川) | 遊佐 三郎 (神奈川) | 岡島 光雄 (宮城) | 廣瀬 昭江 (茨城) | 長谷川壽男 (長野) |

喜寿 65名 昭和14年4月2日～昭和15年4月1日生

- | | | | | |
|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 小泉 信義 (文京) | 宮田 澄江 (文京) | 俵 明子 (江東) | 山本 季子 (江東) | 徳永 裕人 (品川) |
| 佐々木興子 (大田) | 宮川 和枝 (大田) | 岩田 邦勝 (杉並) | 大野 貴義 (杉並) | 窪田 照子 (杉並) |
| 高村 慶子 (杉並) | 月岡 透 (豊島) | 一之瀬藤彦 (板橋) | 斉藤 福次 (板橋) | 平井迦葉子 (板橋) |
| 宮崎 隆 (板橋) | 安井 幸生 (板橋) | 榎本 幸弘 (練馬) | 菊池 章雄 (練馬) | 西村 正憲 (練馬) |
| 船着 義之 (練馬) | 渡邊 昭雄 (練馬) | 戸井田吉政 (足立) | 福田 省三 (足立) | 小林 繁 (葛飾) |
| 土井 靖子 (葛飾) | 安藤 悦夫 (江戸川) | 佐々木暁雄 (江戸川) | 森 孝 (江戸川) | 大野 義久 (八王子) |
| 住田 法祥 (八王子) | 遊佐 順子 (八王子) | 上野美津枝 (日南) | 下田 晴治 (日南) | 中澤 敬 (日南) |
| 末松 茂孝 (日南) | 宗近 弘武 (日南) | 岩井 昭 (武蔵・三鷹) | 谷口 孝司 (北・北) | 安達 知子 (北・中) |
| 広瀬 忠雄 (府中) | 松浦 怜子 (調布) | 安達 勉 (狛江) | 大熊 靖 (狛江) | 神田 輝美 (狛江) |
| 守屋 龍男 (北・西) | 池田 清澄 (西多摩) | 遠藤 純夫 (西多摩) | 中西 勲 (西多摩) | 富士 光男 (西多摩) |
| 櫻田 昭正 (三宅島) | 岡本 裕之 (千葉北) | 武川 俊男 (千葉北) | 有賀 政夫 (埼玉) | 久世 巨克 (埼玉) |
| 中川 一 (埼玉) | 村田 充 (埼玉) | 柳 辰夫 (埼玉) | 福田 營二 (埼玉) | 柏原 哲 (神奈川) |
| 桂林 和子 (神奈川) | 鈴木 紘一 (神奈川) | 谷藤 恭一 (神奈川) | 深田 洋子 (神奈川) | |

平成 27 年度 東京都退職校長会一般会計決算書

1 収入総額 11,236,488 円 2 支出総額 11,151,541 円 3 差引残額 84,947 円

単位=円 △収入は予算より減、支出は予算より増

Table with 5 columns: 款, 項目, 27年度予算額, 27年度決算額, 増減, 摘要. Rows include 年会費, 繰越金, 雑収入, 積立基本金, 合計.

Table with 5 columns: 款, 項目, 27年度予算額, 27年度決算額, 増減, 摘要. Rows include 会議費, 役員会費, 部会費, 各種委員会費, 事業費, 事務用品費, 備品費, 事務員行動費, 印刷費, コピー機費, 通信費, 全連退分担金, 運営資金積立金, 会員名簿積立金, 諸費, 雑費, 予備費, 合計.

平成 27 年度 特別会計 決算書

Table for 1 運営資金積立金 (3). Columns: 収入, 支出. Rows: 運営資金積立金, 利息, 積立金 (特別会計より), 計, 次年度繰越.

Table for 2 会員名簿積立金 (4). Columns: 収入, 支出. Rows: 会員名簿積立金, 利息, 積立金 (特別会計より), 計, 次年度繰越.

Table for 3 積立基本金 (2). Columns: 収入, 支出. Rows: 積立基本金, 寄付金 (都民互助会), 利息, 特別助成金, 行動費等, 積立金等, Web保守費, 印刷機リース費, 計, 次年度繰越金.

平成28年3月31日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

会計部長 安達 勉

諸帳簿、証書等、関係資料と対照監査したところ、適正且つ正確に処理されていることを確認しました。

平成28年4月13日

監事・氏名・印

大角英明 今井重文 藤中千恵 印

平成28年度 事業計画

1. 活動方針

本年度は本会にとって未来を見据えた創造的組織の構築と業務内容の全面的な見直し元年と位置づける。スローガン「For the Future」一を掲げ、新たに設置された業務改善・基金検討委員会を中心とした会則等の積極的な見直しに期待している。すでに、新執行部は、発足と同時に、HPの全面刷新や会報発行の基本方針の策定に着手し、斬新的な組織運営に対応しているが、さらなる会の充実と発展に努力する。そのために綱領の精神を一層深化させ、事業計画を着実に実行するために、次の具体的方針を掲げる。

- (1) さらなる業務の透明性を図り、会員の期待に応える組織の見直しと効率的な会の運営に徹する。
- (2) 会員の入会促進と会員増強のため、本部と支部との一体的で効果的な取り組みを加速させる。
- (3) 策定された「予算編成の基本原則」に基づき、適正で効率的な予算執行を図るよう努力する。

2. スローガン：「For the Future」一将来に向けて一

3. 活動の重点

- ◇ 会員の確保・会員増強に努める。
- ◇ 組織的・効率的な運営に努力し、各々が具体的な成果を上げるように努める。
- ◇ 各事業を見直し、健全財政を目標に、予算の効果的で適正な運用・執行に努める。
- ◇ 会員の親睦と互助に寄与するとともに、生涯学習の場を広げる。
- ◇ 会報やHPを通して、会員が情報を的確に共有し、相互の連携を強化する。
- ◇ 都教育庁委託事業を受け入れ、会員の豊かな経験を活かし、その期待に応える。
- ◇ 関係教育機関・団体と連携強化を図り、本会の充実と発展に努める。

4. 各部・委員会の目標・事業計画

- (1) 総務部
 - ◇ 平成29年3月退職予定者、平成24年・平成28年3月退職者で未加入会員等の情報を的確に提供し、入会勧誘の促進に努める。
 - ◇ 総会、支部長会等で各部との連携を密にし、円滑な会の運営に努める。
 - ◇ 平成28年度入会者名簿を作成する。また、平成29年度版会員名簿発行の準備をする。
- (2) 会計部
 - ◇ 新年度予算の編成は、「予算執行の基本原則」に則り、編成する。
 - ◇ 各部、各委員会等と緊密な連携を図り、諸活動、諸事業の円滑な運営ができるよう配慮する。
 - ◇ 会員減少等に伴う収入減により、予算の編成、執行、運用を適正にし、極力支出の抑制に努める。
- (3) 会報部
 - ◇ 東京都退職校長会の活動状況を会員に提供するために、より魅力ある会報の発行に努める。また、東京都教育委員会に会報を送付し、本会への関心と理解を得られるように努める。
 - ◇ 退職予定者に会報を送付することにより、本会の活動を理解し、賛同していただくと共に、入会を促す。
 - ◇ 会報は、年4回(4月、7月、10月、1月)発行を予定し、広報活動に努める。
- (4) 福利厚生部
 - ◇ 白寿・米寿・喜寿の会員には、祝意を表すなど会員の福利・厚生の実施に努める。
 - ◇ 物故者には弔意を表す。
 - ◇ 懇親会などを通して、会員相互の交流・親睦・連携を図る。
 - ◇ 関係団体との連携を図りながら、年金・叙勲等に関する情報の収集・提供を行う。
- (5) 生涯学習部
 - ◇ 支部活動の充実と活性化を図る発表会を行う。
 - ①教育支援活動 ②健康に寄与する活動、歴史散歩等
 - ◇ 各クラブ活動の活性化を図り、各クラブ所属員の増員への支援をする。
 - ◇ 生涯学習部が企画運営して、東京都発見散歩を実施し、会員に紹介する。
- (6) 事業改善・基金検討委員会
 - ◇ 諮問事項について、更に検討を加え、平成28年度内に報告書を提出するよう検討作業を進める。
- (7) 教育関係機関・団体との連携
 - ◇ 東京都教育委員会と教育懇談会を開催し、教育課題に応える教育支援を推進する。
 - ◇ 国公立幼稚園・こども園長会、校長会五団体との教育懇談会を開催し、連携強化に努める。
 - ◇ 全国連合退職校長会との連携強化に努める。

5. 教育庁受託事業

- (1) 都教育庁
人材バンク受託事業
運営特別委員会
 - ◇ 「人材バンク事業運営に関する相談・普及広報活動等について」の事業を受託し仕様書により、本委員会が委員長を中心に、全面的な事業推進の任に当たる。同事業の費用弁償については、契約書に基づき別途処理する。
- (2) 都教育庁
採用前実践的指導力
養成講座受託委員会
 - ◇ 都教育庁委託の「平成28年度公立学校教員採用候補者任用前研修事業」を受託し仕様書により、本委員会が委員長を中心に、全面的な運営及び事業推進の任に当たる。また、同事業の費用弁償については、契約書に基づき、別途処理する。

平成 28 年度 東京都退職校長会予算書

一般会計

1 収入総額 10,491,947 円 2 支出総額 10,491,947 円 3 差引残額 0 円

単位=円 △27年度より減

収入の部				
款 項 目	28年度予算額	27年度予算額	増 減	摘 要
年 度 会 費	7,907,000	8,276,000	△ 369,000	2,500円×3,155人・1,300円×15人 (計3,170人)
繰 越 金	84,947	34,048	50,899	
雑 収 入	500,000	350,000	150,000	利子、祝金、広告掲載料等
積 立 基 本 金	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	特別会計積立基本金より
合 計	10,491,947	11,160,048	△ 668,101	

支出の部				
款 項 目	28年度予算額	27年度予算額	増 減	摘 要
会 議 費	450,000	495,000	△ 45,000	
総 会 費	400,000	400,000	0	総会に関する諸費(会場費、記念品費、発送費等)
役 員 会 費	30,000	50,000	△ 20,000	正副会長、企画、理事、支部長等資料作成費等
部 会 費	10,000	25,000	△ 15,000	各部の会合・資料・印刷・通信費
各種委員会費	10,000	20,000	△ 10,000	教育支援活動委員会 役員選考委員会等資料作成費等
事 業 費	4,085,000	4,349,000	△ 264,000	
会員名簿発行費	170,000	180,000	△ 10,000	会員名簿作成、発送費等
会報発行費	1,300,000	1,300,000	0	会報192～195号印刷・発送費等
生涯学習費	50,000	80,000	△ 30,000	会員研修会会場費・講師謝金等
慶 弔 費	850,000	900,000	△ 50,000	香料
渉 外 費	30,000	70,000	△ 40,000	他機関との交渉、連絡費等 懇談会会場費
クラブ補助費	100,000	130,000	△ 30,000	クラブ事業の助成費
教育支援費	80,000	100,000	△ 20,000	研修会諸経費・現職教員対象研修会諸経費等
会員増強費	40,000	60,000	△ 20,000	新会員入会に関する通信費等
HP運営費	270,000	274,000	△ 4,000	HP維持費等
支部活動助成費	980,000	1,000,000	△ 20,000	支部助成、県支部助成、振替料等
支部活動祝金	200,000	240,000	△ 40,000	支部総会・周年行事等の祝金
島嶼活動助成	15,000	15,000	0	支部長会交通費一部負担
事 務 費	3,410,000	3,473,000	△ 63,000	
事務用品費	70,000	73,000	△ 3,000	事務用品、消耗品等
備 品 費	10,000	10,000	0	事務機器等
事務員行動費	1,080,000	1,100,000	△ 20,000	本部事務員行動費、事務補助員行動費
事務所費	1,850,000	1,850,000	0	事務所借料、会議室使用料、光熱費電話代等
印 刷 費	50,000	80,000	△ 30,000	資料文書等印刷費、印刷機保守契約
コピー機費	280,000	240,000	40,000	コピー機リース代等
通 信 費	70,000	120,000	△ 50,000	事務局の通信連絡用諸費
交 通 費	1,220,000	1,420,000	△ 200,000	役員会・部会・事務局等の交通実費等
全連退分担金	1,268,000	1,328,000	△ 60,000	全連退会費3,170人分(1名400円)
運営資金積立金	10,000	20,000	△ 10,000	周年事業積立
会員名簿積立金	10,000	10,000	0	会員名簿発行積立
諸 費	30,000	50,000	△ 20,000	全連退閔プロ大会(群馬県)参加費等
雑 費	5,000	10,000	△ 5,000	諸雑費
予 備 費	3,947	5,048	△ 1,101	予備費
合 計	10,491,947	11,160,048	△ 668,101	

平成 28 年度 特別会計 予算書

1 運営資金積立金			
収 入		支 出	
繰越金	1,725,809		
一般会計より繰入	10,000		
利息	100	計	0
計	1,735,909	次年度繰越	1,735,909

2 会員名簿積立金			
収 入		支 出	
繰越金	1,037,507		
一般会計より繰入	10,000		
利息	100	計	0
計	1,047,607	次年度繰越	1,047,607

3 積立基本金			
収 入		支 出	
繰越金	29,460,135	一般会計へ	2,000,000
都民互助会寄付金	1,500,000		
利息	5,000	計	2,000,000
計	30,965,135	次年度繰越	28,965,135

平成 28 年 4 月 1 日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

平成28年度 本部役員

会 長	多田 丈夫 (八王子)	総務部長	林 和明 (世田谷)
副会長	黒田 貞夫 (埼玉)	会報部長	和田 弘 (練馬)
	生涯学習部担当	福利厚生部長	守屋 龍男 (北多摩西)
	中岡 啓子 (足立)	生涯学習部長	齋藤 徳蔵 (千葉西)
	福利厚生部担当		
	宇津木順一 (西多摩)	事務局長	三辻 陽夫 (日南)
	総務部担当		
	安達 勉 (狛江)	監 事	大南 英明 (千葉西)
	会計部担当・会計部長兼任		今井 重夫 (神奈川)
	苗村 崇伶 (江東)		藤井千恵子 (埼玉)
	会報部担当		

支部長

千代田・中央	岩谷 榮子	北	大崎美代子	調	布 渡邊 孝
港	野々山 毅	荒	川 戸叶 恒夫	狛	江 松崎 正勝
新	宿 廣澤 義夫	板	橋 清水 健	北多摩西部	重野 和夫
文	京 小林 博	練	馬 内匠 英夫	西 多 摩	宇津木順一
台	東 老川 秀夫	足	立 伊藤 誠一	大	島 村田 公充
墨	田 小菅 和子	葛	飾 佐藤 晴雄	三 宅 島	浅沼 洋
江	東 森 俊一郎	江 戸 川	奥村 信吾	千 葉 南 部	桐谷 澄男
品	川 高橋 信夫	八 王 子	渡辺 和則	千 葉 中 部	菅谷廉之助
目	黒 薩日内信一	町	田 沖倉 啓寿	千 葉 西 部	藤木 三五
大	田 天野 正忠	日	南 寺沢 史	千 葉 北 部	永嶋 達夫
世 田	谷 小林 由衛	武蔵野・三鷹	田原 良敏	埼 玉 県	東條 康永
渋	谷 五十嵐邦亨	北多摩北部	楠本善之助	神 奈 川 県	石川 秀治
中	野 緒方 良子	北多摩中部	鎌田 敏雄		
杉	並 井口 茂	府 中	延藤 君雄		

顧 問

太田 秀 (文 京) 片岡 敦子 (北多摩北)

参 与

加藤 玉枝 (埼 玉) 大木 英雄 (千葉南)
 黒田 彦治 (神奈川) 白石 裕一 (武蔵野・三鷹)
 小林 英子 (豊 島) 武藤 昇 (板 橋)
 相田新太郎 (練 馬) 田野倉訓郎 (西多摩)
 滝澤 利夫 (埼 玉)

平成二十八年度 第一回会員研修会

生涯学習部

一日時 五月十三日(金)

十四時二十分開会

二 会場 スクワール麹町

三 生き生き人生

元気の出る集い

―教育支援、文化活動の支援―

四 研修内容

挨拶 会長 多田 丈夫

発表

・教育支援活動

目黒支部 松本 保枝

・教育支援活動

日南支部 寺沢 史

・文化活動

千葉中部支部

佐々木 勇

謝辞 副会長 黒田 貞夫

◆研修内容の概要

一 会長挨拶 多田 丈夫



総会に引き続き、会員研修会を行います。各支部の総会に出席しておりますが、研修会等を盛んに行っていることに感謝しているところです。

本会では、支部と本部の一体化に努力しているところですが、本日は、特に教育支援等について三支部の方々に発表していただきます。三支部の支部長始め会員の方々のご協力に感謝いたします。充実した研修になりますことを心から期待して挨拶いたします。

二 発表

(1) 目黒支部教育課題研修会

発表者 松本 保枝

① 目黒支部の活動の概要

会員数142名 A 49名 B 93名



総会には毎年40名の出席があり、比較的活発な支部である。

② 教育課題研修会の位置づけ

会員全員を対象とした新年研修会と役員・理事を対象とした研修会を年2回実施している。

③ 名称の変遷

・教育問題懇談会(平成元年～13年)

・ミニ研修会(平成15年～17年)

教育基本法改正の時期に役員・理事の内なる思いから自主研修として始まった。

・教育研修会(平成18年～20年)

研修の定着により名称をふさわしいものにする。

・教育問題研修会(平成21年～22年)

・教育課題研修会(平成23年～)

現職校長とともに前向きに取り組む研修会であることを示すために第十七回より改名した。

④ 平成二十七年教育課題研修会のまとめ

【新学習指導要領の実施に向けた小学校の取り組み】

長谷 豊氏(菅刈小学校長)

○新学習指導要領の実施に向けて

・アクティブラーニングを柱とした新たな方向性に向けた教育の改革

・特別な教科「道徳」の実施に向けて

・英語科新設に向けて

○各学校が抱える今日的課題

・授業力を柱とした教員の資質向上

・リーダーの育成

・心の教育(いじめ等の対応)

・SNSへの対応

・取り組むべき課題はそのほかにも山積(オリンピック・パラリンピック教育の推進・特別支援教育等)

⑤ 成果と課題

・現職校(園)長から本音の話を聞くことが出来、質疑応答が活発に行われた。現職の校(園)

長の熱意と活発な様子が伝わり退職校長として教育の動向を見据え支援していききたいと思いを強くしている。

(2) 日南支部
十一年間の教育懇談会

発表者 寺沢 史



① 支部の名称について

日野市・多摩市・稲城市が合同で支部を設立。〔昭和43年〕現在の会員数136名

② 教育懇談会の性格

・平成十七年から年一回の開催を始める。五年間は、会員から問題提起、それを基に話し合う。
・次の五年間は、外部の有識者に依頼して、地域や教育に関連した講演（講話）を依頼し会員の視野・認識を広げることが目指した。

・十一回目の昨年は、当初の会員の問題提起を中心に、円形の形式で話し合う会とした。

③ 第十一回教育懇談会のまとめ

【現在の教育課題と私たちの取り組み】

市川哲男氏（問題提起者1）

○公教育の公平性・平等性と教育の機会均等

* 学校教育制度の再編に伴う教育機会の格差の問題

○わが国と郷土を愛する心の育成

* 郷土愛・愛国心の育成を僻地教育の理念から考える。

○教職における研究と研修

* 教職の専門職制 * 教職の特性と学校組織の水平構造

岸田博三氏（問題提起者2）

・身の回りの出来事から、鋭く切り込む問題提起として次の四つを提示された。

○教育における数値の取り扱いをどうすればよいのか。

○能力を育てることと人間を育てることをどう統合するか。

○国家百年の計と学校一年の計との間にどう橋を架けるか。

○学習のモチベーションの質をどうすれば高められるか。

出席者の意見

・能力を育てること、人間を育てることの両方大切。目に見える者だけでなく、目に見えないものや資質を大切にしたい等、

現在の様々な教育課題に正面から

取り組んだ問題提起に対する出席者の積極的な発言で有意義な会となった。

(3) 千葉中部支部

発表者 佐々木 勇



○童謡・唱歌を歌う会

・船橋市で童謡唱歌を歌う会設立（平成13年）

・支部の研修会にて「さあ歌おう」会を実施（平成25年）

・平成26年より支部で活動開始

○会のモットー

・童謡、唱歌の優しい歌をお腹の底から歌って笑って、楽しい時間をすごしましょう。

・歌の力で人生を明るく、寝たきりゼロ、引きこもりゼロ。

皆で歌を歌いながら元気の良い仲間を育てたいものです。

・歌を歌う時の心掛け
・歌を歌う時、胸をはり、やさしい姿勢で、胸をはり、やさしめに保つようにしましょう。

・発声練習
呼吸・発声配置・音の支え・呼

気上歌唱・喉を開く・リラックスが大切です。

最後に皆さんで『故郷』を歌いましょう。―全員合唱―

謝辞 副会長 黒田 貞夫

各支部、レベルの高い内容で皆さんに大きな刺激を与えていただいた。目黒支部では現職の方々と一緒の時間を継続している。

また、日南支部では、専門性を深める内容を現役に立ち返り学習している。千葉中部の佐々木先生には元気をいただいた。「生き生き人生 元気の出る集い」各支部が特色を活かした会の活性化を図っていただきたい。

「アンケートの結果」
・自分の支部でも努力しなければと実感した。大変参考になった。生涯を学びながら歩むことの大切さが分かり貴重な実践だと感じた。等の感想が寄せられた。また、質疑の時間が必要

・講演会の検討を、等、貴重なご意見もいただきました。今後に生かして参ります。

〈報告〉新企画 本会主催の「教育フォーラム東京・二〇一六」

去る5月17日（火）、東京ガーデン・パレスを会場に本会主催の新企画、「教育フォーラム東京・二〇一六」が開催された。雨模様にも関わらず、約108名余の会員が一堂に会した。参加者の多くがこの事業の経験者のため会場は熱気にあふれた。はじめに、前、東京都教育委員会教育監で現、明海大学副学長 高野敬三氏の「これからの東京の教育行政」と題した基調講演を拝聴した。平成26年に策定された「東京都長期ビジョン」と平成27年11月に策定された「東京都教育施策大綱」がパワーポイントで紹介された。東京都長期



基調講演
前 東京都教育委員会教育監
高野敬三氏

ビジョンでは、「世界一の都市・東京」の実現を目指す基本目標と都市戦略と25本の政策方針が披露された。また、「東京都教育施策大綱」では、東京の子供たちの将来像が示され、「グローバル化する東京、日本を支える人間」を柱に東京の教育の根本方針が紹介された。いずれも、国際都市東京ならではの教育施策であるとの印象を強く持った。基調講演に続き、「これからの若い教師に期待すること」をテーマに、次のパネラーによる活発なパネルディスカッションが行われた。

○総合司会 宇津木順一
(東京都退職校長会副会長)

○コーディネーター

多田 丈夫

(東京都退職校長会会長)

○パネラー（6名）

堀田 直樹氏

(教職員研修センター授業力向上課長)

添田 禮子氏
(元、大田区立馬込東中学校長)

伊東富士雄氏

(元、杉並区立三谷小学校長)

小山 利一氏

(元、都立青山高等学校長)

朝日 滋也氏

(現、都立永福学園校長)

桑原 利夫氏

(元、千代田区立御茶ノ水小学校長)

さて、平成25年から始まった「採用前実践的指導力養成講座」(以下、採用前養成講座)も3年を経過し、約六〇〇名近い受講生がすでに各学校で活躍している。この現実を直視した企画をと、「教育フォーラム東京二〇一六」を開催した。まず、都教委、協力校、講師代表、企画担当代表をパネラーにこの画期的な事業に参画しての率直な感想やご意見を聞いた。加えて、苦労話や成果も紹介された。

その上で、それぞれの立場からこの採用前養成講座をよりよくするための方策や改善点は何かをお聞きした。まとめの段階で

会場の参加者から意見や感想を

いただいた。また、ウィークデー

のため出席が叶えられなかった

受講経験者代表から、①社会人

になるという意義と自覚が芽生

えた。②同期の仲間と一足早く

出会えたことで連帯感が生まれ

た。③特別支援学校の研修から

通級指導や授業のイメージがも

てた。④グループに一人、先生

がついていただいたので、質問

しやすく、あたたかい雰囲気

で研修ができた。⑤保護者への対

応など、具体的な場面を想定し

た研修が強く印象に残り4月か

ら役立っている。等との感想が

寄せられた。

終わりに、この企画に際し、

ご協力いただいた各区市の支

部長に感謝すると共に、この

フォーラムにご参集いただいた

会員の皆様から感謝申し上げ、

報告とする。

尚、このフォーラムの詳細な

内容は、本会のHP等を通じて

広く関係者にお伝えする計画に

している。

(文責 多田 丈夫)

支部だより

支部の存続を願って

港支部 野々山 毅

平成26年度、港支部のA会員（港区在住）は、9名になりました。B会員（他地区在住）は85名でした。そこで、今まで見学会や学校訪問などをしてきましたが、参加者が少なくなり、実施が困難になってきました。

このままでは、資金面で支えていただいているB会員の方々に申し訳なく思い、B会員の方々を対象に港支部に残っていただけるかどうかの調査を行いました。その結果、約半数の35名の方々が残ってくださることになりました。

この調査結果から、港区に愛着を持っている方が多くいらっしやることを感じ、港支部を存続させていかなければという思いを強くしました。また、退職された校長先生方の消息を尋ねられることもあり、名簿を管理しておくことの大切さも感じま

した。この年、会計を担当してくださった神奈川支部の桜井明子先生が亡くなられました。

そして、今年、山本英夫支部長が川崎市に転居されました。

28年度はまず、身近な方々に声をかけ、組織づくりから始めました。それから、総会・懇親会の費用の軽減のため会場を変えることにしました。活動面では、会員相互の親睦を深めるために情報交換を密にすること、また、区内の学校との連携を図り、そこで得た情報などを会員の方々にお伝えすることなどをしていきたいと考えています。

今年度、退職された二名の方が入会してくださいました。今は、これからの港支部の存続と進展を願って、会員の方々と共に力を合わせ、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。



魅力を感じる支部会則の改訂

北多摩西部支部長 池谷 勇

五市編成の本支部は、年々深まる高齢化と会員数の激減により地区単独での役員の輪番制維持は不可能な状況であった。

一、会則改訂の必要性

立川地区を核に輪番制も配慮し、会員数増加を目標に「魅力を感じる支部事業を目標し」会員数に応じた運営と、役員数及び会員の総意を生かした支部活動に重点を置いた。①役員数の削減（監事の外部招聘を含む）②理事会の活用・会則に精通する内規の充実を図る。③透明性の高い事業運営を図る。

など、本部とも会則原案の連絡会を設けて協議をした。原案は立川地区が担当すると同時に改訂支部会則の運営開始となった。

二、改訂支部会則による運営

(1) 役員削減について

①役員数（2/3減）削減 ②事業の見直し等を骨子とした改訂を行った。最大の課題は、少人数の地区で役員四名の選出が可能であるかどうかである。

担当地区役員は、特に①役員数に合った事業の企画・運営

②分担の役割のみでなく全体の運営に対して協力的態勢の重視
③事業及び事務の簡便化を図り不易と流行を明確化 ④必要に応じた、他地区委員・会員に協力を依頼する等の徹底を申し合わせ引継ぎ事項とした。

(2) 事業の見直し

昔を懐かしみ、語り合いの喜びを深める「レク座談会」。

近隣での「野草観察会」、「国営昭和記念公園ウォーキング」。何れも笑顔があふれ、健康増進につながる事業となった。

なお、皆様方のご協力により、今回の新規会員の入会者数は、全支部最上位を収めることができ、会員の大きな喜びとなった。



平成28年 春の叙勲・高齢者叙勲受章会員

(敬称略)

瑞宝小綬章 1名
芝崎 茂夫(千葉中部)

瑞宝双光章 11名
太田 秀(文京)

厚地 大司(世田谷) 平井 正人(日南)
鬼塚満壽彦(世田谷) 廣岡 六衛(北多摩北)
坂本 尚敏(板橋) 林 幸成(埼玉)
安齊 和寿(八王子) 町田 槌男(埼玉)
佐藤 次郎(府中) 八田 洋彌(神奈川)

高齢者叙勲受章会員
瑞宝双光章 4名
岸本 眞(文京)
黒澤 昭夫(文京)
浅子 昭三(世田谷)
倉橋 宗作(中野)

湯島の動静

5月

2 人材バンク受託
事業特別委員会

9 正副会長会

10 福利厚生委員会

11 総務部会

12 「短歌クラブ」

13 東京都退職校長会
第63回定期総会

〃 第1回研修会

16 生涯学習部会

17 教育フォーラム
(二〇一六)大会

18 会報部会

27 人材バンク委員会

6月

1 人材バンク委員会

〃 委嘱状伝達式

3 全国連合退職校長会
第52回定期総会

7 正副会長会

7月

〃 福利厚生部会

10 「短歌クラブ」

13 総務部会

15 企画委員会

〃 生涯学習部会

20 理事総会

24 人材バンク委員会

28 総務部会

29 会報部会

4 総務部会

5 正副会長会

〃 人材バンク委員会

6 会報部会

8 「短歌クラブ」

11 企画委員会

12 福利厚生委員会

〃 生涯学習部会

13 総務部会

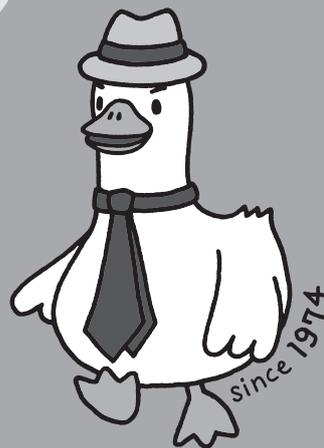
〃 会報部会

20 会計部会

〃 総務部会

23 人材バンク委員会
支部長会①

選ぶなら、がんの治療に
幅広く対応した
がん保険。



はじめてダック

通院・入院・抗がん剤・診断一時金

新 生きるための
がん保険 Days

女性特有の
がんにも
手厚い

新 生きるための
がん保険 Days

すでにアフラックの
がん保険に
ご契約の皆様

新 生きるための
がん保険 Days+

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております)

三泉トラスト保険サービス株式会社

〒101-0054 千代田区神田錦町3-11-1

☎0120-357-212 FAX 03-3233-6754

◎商品の詳細は「契約概要」等をご覧ください。

(引)受保険会社

「生きる」を創る。



アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)
東京第一法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル19F
Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広宣課-2015-0015-1506023 4月7日

「ねむの木の庭」探訪

会報部での編集会議の合間に「ねむの木」にはどんな花がいつ頃咲くのかという話で盛り上がった。開花の情報を得て、6月14日、目黒駅に集合。

「ねむの木の庭」は池田山の住宅街にあった。多少上り下りのある、車が通らないような道を20分ぐらい話しながら歩いていくと、「ねむの木の庭」と書かれた表札のある門に気付いた。門を入ると、落下している可愛らしい花がいくつも目に付いた。ふと上を見ると、ねむの木の葉が茂っている間に、薄桃色の美しい花が見えた。

木の下は落下したねむの木の花が三色スミレに混じって咲いているようにもみえた。木の上を見上げると優しさというより、ゆったりとした気持ちになった。「ねむの木の庭」は、皇后陛下のご実家だった旧正田邸跡地にできた品川区立公園である。



次に城南五山のの一つとして知られている、池田山の一角にある、池田山公園へと向かった。インドネシア大使館の前を通り、しばらく歩くと、池田山公園に着いた。斜面を利用した池のある、すばらしい庭園であった。そして、芝増上寺子院群へと向かった。そこは、9寺あまりの寺院があり、伊東深水の天井画や、樹齢三百年を誇る桜の名所も見た。

賑やかな町並みでも、一歩路地に入ると名だたる住宅街で、ほっと一息つける雰囲気を感じられて、ゆったりとした気持ちになって、話しながら散歩を楽しむことができる。

機会があれば、また、訪ねてみたい。

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

ご法事、 葬儀後の お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可(五)第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojyo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成28年6月20日届出現在)

物故者		氏名		年月日	支部名	校種	年齢	頁
児玉	良司	28	3	11	北多摩	小	69	76
高橋	秀	28	3	9	日南	小	85	67
三浦	一郎	28	3	8	葛飾	小	86	51
岡田	啓佑	28	3	2	八王子	中	81	58
小山	兼一	28	2	26	西多摩	小	90	106
清水	洋	28	2	20	杉並	中	83	29
市川	正	28	2	18	神奈川	中	92	131
日野	豊	28	2	18	西多摩	小	75	103
小澤	弥一	28	2	12	西多摩	中	100	105
大内	武彦	28	2	5	北	中	85	23
田島	武雄	28	2	1	八王子	小	95	57
二宮	重恒	28	1	24	埼玉	中	85	128
谷合	良治	28	1	11	西多摩	中	97	103
三上	傳次郎	28	1	8	世田谷	中	93	18
榎本	建雄	28	1	5	新宿	小	68	2
村上	裕見	28	1	5	埼玉	中	94	122
原島	八三郎	27	12	13	西多摩	小	94	101
小川	忠良	27	10	23	杉並	養	102	28
奥山	勲	27	10	10	西多摩	小	86	101
保坂	芳春	27	9	19	西多摩	中	99	105
金子	久	25	9	14	千葉北	小	85	119
片山	利雄	28	3	13	足立	小	91	47
高木	清文	28	3	15	西多摩	中	75	105
眞船	正久	28	3	24	日南	小	95	69
工藤	允	28	3	25	中野	中	95	24
鈴木	清	28	3	27	練馬	小	85	42
福田	薫	28	4	2	練馬	小	92	42
畠山	恵美子	28	4	7	八王子	小	84	58
井上	誠	28	4	15	武蔵野	小	93	75
伊藤	芳郎	28	4	20	神奈川	中	101	134
蒔田	眞一郎	28	4	21	八王子	中	80	61
國元	通子	28	4	28	品川	小	83	9
丹	宏司	28	4	28	西多摩	小	81	105
小町	芳久	28	4	28	北多摩	西小	86	95
高崎	伊平	28	4	30	西多摩	小	93	102
三浦	和	28	5	4	北	養	86	15
師岡	将夫	28	5	11	西多摩	中	92	101
古橋	宏	28	5	13	中野	小	88	24
中溝	實	28	5	13	町田	小	93	63
横田	允男	28	5	14	北多摩	北高	89	78
三島	仙彌	28	5	20	埼玉	中	91	126
島田	辰也	28	5	23	西多摩	小	86	101
渡邊	勉	28	5	23	神奈川	小	84	133
小川	祐吉	28	5	30	新宿	中	82	3
伊藤	秀雄	28	5	30	神奈川	中	92	134
森	雅夫	28	6	15	狛江	中	84	91

謹んでご逝去を悼み
ご冥福をお祈り申し上げます

物故者



応募コーナー

短歌

陸奥は北の果てなる啓翁桜
みちのく
けいおうざくら

荷解けばほのと紅さし染むる

昼餉時院内コンビニ医長も並ぶ

医長の弁当私の惣菜

忍び寄る原発放射線染むるらし

机・ランドセルあの日そのままに

和知光儀(府中支部)

作品募集

短歌・俳句・川柳(ひとり
三首まで)・コント(百字
程度)等を葉書でお寄せく
ださい。

送り先

〒113-0034 東京都文京区

湯島4-12-3

日公連ビル5F

東京都退職校長会 会報部

編集後記

平成二十八年度第六十三回総
会が五月十三日に終了し、六月
二十日には理事総会が開かれて、
多田会長の下、本年度の事業も
本格的にスタートしました。
その報告も兼ね、本年度最初
の会報第一九三号を、お届けし
ます。

本号がお手元に届く頃には、
二四〇万人も有権者が増えた参
議院議員の選挙も終わり、七月
三十一日には、世間を騒がせた
都知事選も結着します。

世界ではテロの報道が絶えず、
日本も安泰とは言えません。
自然界も大荒れで、地震に続
き、大雨の災害等と心配の種も
尽きません。

人生残り少ない私達にとって
も、のんびり余生を送れるよう
な状況には無いようです。
それでも日常生活は続きます。
セコイと言われないよう生きて
いきたいものです。

(佐藤 忠三)